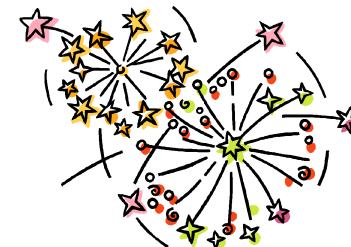


花火は、なぜよく燃えるのか？ なぜいろいろな色がでるのか？

夏といえば、花火。花火には、打ちあげ花火、線香花火、ふき出し花火などいろいろな種類がありますが、共通点は…、とてもよく燃えること。それは火薬のおかげです。では、火薬はどうしてよく燃えるのでしょうか？
また、花火にはさまざまな色の光がでますが、そのしくみはどうなっているのでしょうか？



サイエンスショー「花火の大実験」を見て、説明を聞いて、花火について考えてみよう

黒色火薬(こくしょくかやく)に入っているものは？(○をつけましょう)

すみ ぼう 炭の棒 炭のこな 塩 いおう 硫黄 水 さとう しょうさん 硝酸カリウム 紙 てつ 鉄のこな

何かが燃えるときに、必ずいる3つのものは？(○をつけましょう)

水 さんそ 酸素 にさんかたんそ 二酸化炭素 もえるもの ねつ 熱 光 バケツ

火薬の中の硝酸カリウムが燃えると(あつくなると)、何を出しますか？

それは、どんな実験でたしかめられますか？

宇宙で花火はできると思いますか？その理由も書いてみよう。

つまり、火薬はなぜ、よく燃えるのでしょうか？

火薬に鉄(てつ)を加えると美しい花火になりますが、鉄はどんな形(かたち)しておきますか？(○をつけましょう)

かたまりにする わた 綿のよう(よう)にする さびた鉄(てつ)にする こまかい こな 粉(こな)にする

それは、なぜですか？

つぎのものがまざったものを熱(あつ)くすると、それぞれ何色(なにいろ)に光(あかり)りますか？

- ①銅(どう) … ③ナトリウム …
②カリウム … ④ストロンチウム …

つまり、花火(はなび)にいろいろな色(いろ)がついているのは、なぜ(なぜ)でしょう？